

日時：令和5年9月28日（木）10：00～12：00

場所：研修ホール

出席者：9名

- ・委員6名（7名欠席）
寺澤幸昌、佐藤晃、滝沢勝美、鈴木絵美、高宮征宏、宮野千栄
- ・千葉賢 校長
- ・事務局 後藤知恵（副校長）、石川千枝（総務主任）

1 校長あいさつ

日頃より本校の教育活動へのご支援、誠にありがとうございます。

本校の特徴である地域との協働連携を柱とした教育実践も順調に推移していると思っている。岩手日報紙や八幡平市広報誌などでもご紹介いただいているので、委員の方々もご存じのことと思っているが、詳細は後ほど副校長から報告する。

相撲部のインターハイでの活躍ぶりも多くのマスコミで取り上げていただいた。昨日八幡平市長への報告に伺った。相撲部は10月13日から鹿児島県の奄美大島で開催される特別国体にも岩手の代表選手として参加する予定である。

第1回の会議において、入学者の減少を食い止めることが、本校の大きな課題であることが話題の中心になった。同窓会などの集まりでもそのことが話題にあがることが多い。今年度の中学生の一日体験入学では、普通科と家政科学科の体験授業に参加してもらった。また、西根中学校さんにはPTAの方々の学校見学を企画していただき、授業等の取組を見て新たな発見もしていただいた。今後、10月25日からの学校公開に合わせて、西根一中の2年生全員が来校予定で、10月12日は安代中学校に向いて生徒が中心になって高校説明会を行う予定である。中学生に地域の高校で学んでもらえるような取組を続けていきたいと考えている。そして地域のみならず広く盛岡圏域あるいは県内地域、県外からの入学生の確保といったようなところにも取り組んでいきたい。そうなった時は下宿や世話人などの確保も必要になってくるが、八幡平市や市長様にも相談申し上げている状況である。八幡平市を存分に味わってもらうために委員の方々にもご協力をいただく場面が出てくるのではないかと感じている。

八幡平市は、教育資源・観光資源が豊富で魅力的な地域である。だからハロウ校の開校や安比高原小ができるというようなことなどもあるのだと思う。本校では鈴木絵美さんに八幡平市の人や機関と学校を繋ぐコーディネートをお願いしている。また商工会様他たくさんの方々の地域の皆様に支えていただいております。それが本校の特徴である。このような教育実践を通して、生徒が地域の魅力や課題を知って、大人と多く関わって、そのような生徒たちを評価してもらって、自己肯定感を高められる生徒の育成に努めていきたい。

本日の協議会もよろしくお願ひしたい。この後来客対応で失礼するが、忌憚のないところを職員にぶつけていただきたい。

2 授業見学〔2校時の授業を参観〕

3 家庭クラブ研究発表

テーマ：「ムラサキが育む地域とのつながり」～読み聞かせで語り継ぐ～

発表者：2年家政科学科 岩崎結人

発表後、委員の方々より感想・激励の言葉をいただく。

4 報告・共有事項

- (1) 「いわて高校魅力化・ふるさと創生推進事業」および「地域との協働による事業」等に関する取組状況について（P 2～7）
- (2) 中学生一日体験入学実施報告（P 8～9）
- (3) 市長とのフリートーク参加報告（P 10）

*（1）～（3）資料に沿って、事務局（後藤）から報告。その後意見交換。

- ・インターンシップについては、就職に結びつけていくことが課題である。子どもたちには、お金の使い道（将来の経済設計）についてしっかり勉強させたい。そして、市外に就職・進学したとしても、何年かして戻って来たときにその資格や技能を生かして地元で就職する（できる）仕組みを作っていかなければならないと考えている。
そのような体制を作れないかというような話をしたい時に、市の担当や学校長が出席できないという日程でこの会議を開催するのは良くない。
鮭の遡上のように、若い世代が大きくなって戻ってきて、地元で貢献できる仕組み作りについて、中学校でも高校でも様々な人たちが声を上げていけば、色々変化していくと考える。商工会の立場として、これからも知恵を絞っていきたい。
（滝沢委員）
- ・インターンシップに来てくれた生徒さんに共通して言えることは、皆さん地元を愛しているということである。家族の状況をよく理解している。夜間の介護はどうしても家族や地域がやっていくしかない現状があるので。これをもっと若い世代に伝えていくのが自分の役割だと考えている。（高宮委員）
- ・高校生にアルバイトを体験してもらうのはとても良いことだと思う。更に、もらったお金で、運用の仕方などを学んでもらって、地元で働くのは関東よりは賃金が安いかもしれないが、十分生活していけるのだということを実感できる機会を作って、それを魅力化していくことも必要ではないか。（宮野委員）
- ・お金の価値は、地域や人によって違ってくるものだと思うので、この地域に合わせた金融リテラシーが必要になってくると思う。（鈴木委員）
- ・市や商工会、金融機関が一緒になってこの地域に合った金融リテラシーの教材を作るというのもいいかもしれない。（宮野委員）
- ・自分たちの頃は、休日でも働ければいくらでも働いて稼ごうという感じであったが、今の子どもたちは定時から定時まで働いて、自分の時間が欲しい。夜勤もできれば避けたい。そのような子が多い。時代の流れだから仕方がないのかもしれないが、企業の方も新しい子どもたちと上手くやっていかなければならないのだろう。一日体験入学のアンケートは、良い評価が多くて良かった。そういう機会を継続していけば、人気が出るのかもしれないと思った。（佐藤委員）
- ・体験入学は保護者の意識を変えるきっかけになっている部分があって、このような機会を増やしていければいいなと思った。本当にいい感想だと思った。
（寺澤委員）

(4) R5年高校コーディネーター研修について(鈴木絵美 委員)

* 高校コーディネーターの全国プラットフォーム構築事業というものがあり、その研修に参加しており、「総合探究の時間がどうあるべきか」、「地域に開かれた教育課程とは」などについて様々な事例や対話を深めながら研修を進めているところである。そこで今回委員の皆さんに「生徒たちが高校卒業時にどんな人になってもらいたいのか」ということを伺って、次の研修会に向けての参考にさせていただきたい。

- ・受け身ではなく、考える力を養って、違うと思うことは違うという自分の意見を伝えることができる人になって欲しい。考える力、伝える力、自主的に。
(滝沢委員)
- ・勉強ができなくても、「働かねば」という、一生懸命働く気持ちのある子がいい。(佐藤委員)
- ・トイレ掃除やゴミ捨てなど、そこにあることを普通にできることが大切ではないか。(宮野委員)
- ・地域課題に目を向けられるような生徒たちが増えればいいなと思う。実際、うちの職員はそういう子が多い。(高宮委員)
- ・自分の言葉で語るができる大人、人間になって欲しい。そうすれば、自分の学校に戻ってきて、外部講師として自分の経験を基に語ることもできるだろう。(寺澤委員)
- ・自分に自信が持てて、自分を好きと思える子になって欲しい。それを土台にして人の役に立ったり、自分の世界を広げたりして欲しいから。(事務局：後藤)
- ・人を柔軟な心で受け入れて、自分の考えも話すことができるようになってもらいたい。肯定感の少ない、発表も尻込みするような生徒たちも、様々な場面で吸収したことをアウトプットする経験などを通して、自信を持って話ができるようになっていくのでとても感心している。様々な経験をさせていただいて、生徒たちは育ててもらっているなあとありがたく思っている。(事務局：石川)
- ・家政科学科はいろいろなことができる状況になっていて、1年生の時と3年生の時の表情が全く違ってくるというのもこの5年間ぐらいの中で見ているので、普通科の中でも魅力化を広めていけたらと思っている。研修は来年度まで続くので、またいつか皆さんと共有したい。(鈴木委員)

(5) その他

* 特になし

5 その他

* 特になし